

橋梁定期点検要領

平成26年6月

国土交通省 道路局 国道・防災課

8. 定期点検結果の記録

定期点検で行った損傷についての点検結果は、適切な方法で記録し、蓄積しておかなければならない。

【解説】

定期点検で行った損傷についての点検結果は、維持・補修等の計画を立案する上で参考とする基礎的な情報であり、適切な方法で記録し、蓄積しておかなければならない。

また、「対策区分の判定」「健全性の診断」については、補修補強等の措置が行われたり、その他の事故や災害等により道路橋の状態に変化があった場合には、再評価を行ってその結果を記録に反映させておかなければならない。

定期点検結果の記録は、付録－3「定期点検結果の記入要領」による。

なお、定期点検結果の記録は、点検毎に作成、保管し、蓄積する。橋梁管理カルテのうち様式－3－1は、カルテ作成要領第2編5.2に規定のとおり、定期点検毎に更新し、次回点検までの各種措置を踏まえて修正するとともに、同5.3に規定のとおり、更新後も保管する。

点検調書(その1) 橋梁の諸元と総合検査結果

緯度 経度		緯度 経度		起点側	橋梁ID
緯度 経度		緯度 経度		起点側	
フリガナ 橋梁名	路線名	管轄	地方整備局	橋梁コード	
所在地	距離標	自	事務所	調査更新年月日	年 月 日
		至	出張所	最新点検年月日	年 月 日
供用開始日	橋長	活荷重・等級	適用示方書	等橋	調査年
上部構造形式		全幅員	車道幅・車線	車道幅	交通量
		幅員	歩道幅	歩道幅	
下部構造形式				地覆幅	大型混入率
基礎形式				中央分離帯	%
		備考		中央分離帯	荷重制限
				交通条件	t
<div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 健全度 (橋単位) </div> <p style="text-align: center;">総合検査結果</p>					

点検調書(その2) 径間別一般図		径間番号		起点側		緯度経度		起点側		緯度経度		橋梁ID	
フリガナ	-	路線名	-	管轄		地方整備局	橋梁コード						
橋梁名	-	距離標	自	事務所	調査更新年月日	年	月	日					
所在地	-	距離標	至	出張所									
全体図													
一般図													

点検調査(その3) 現地状況写真		径間番号		緯度		起點側		緯度		起點側		橋梁ID	
フリガナ 橋梁名	-	路線名	-	緯度	-	起點側	-	緯度	-	起點側	-	橋梁コード	
所在地	自 - 至 -	距離標	自 - 至 -	管轄	-	事務所	-	出張所	-	調査更新年月日		年月日	
写真番号		撮影年月日	メ モ	写真番号		撮影年月日	メ モ	写真番号		撮影年月日	メ モ		
径間番号				径間番号				径間番号					
写真説明				写真説明				写真説明					
写真番号		撮影年月日	メ モ	写真番号		撮影年月日	メ モ	写真番号		撮影年月日	メ モ		
径間番号				径間番号				径間番号					
写真説明				写真説明				写真説明					
現 地 状 況 写 真													

点検調書(その4) 要素番号図及び部品番号図		径間 番号		緯度		経度		起点側		緯度		経度		橋梁ID	
フリガナ 橋梁名		路線名		緯度		経度		起点側		緯度		経度		橋梁コード	
所在地	自 至	距離標	自 至	管轄		地方整備局	事務所	出張所	調査更新年月日	年	月	日			
要素番号図及び部品番号図															

点検調書(その5) 損傷図		径間番号		緯度		経度		橋梁ID	
フリガナ 橋梁名		路線名		緯度	経度	緯度	経度	橋梁コード	
所在地		距離標	自 至	起点側		起点側		調査更新年月日	年月日
								出張所	最新点検年月日
				管轄		地方整備局			
						事務所			
						出張所			
損傷図									

点検調書(その6) 損傷写真		径間番号		緯度 経度		起点側		緯度 経度		橋梁ID	
フリガナ 橋梁名	路線名	地方整備局		橋梁コード							
所在地	距離標	管轄		事務所		調査更新年月日		年 月 日		年 月 日	
自	自			出張所		最新点検年月日		年 月 日		年 月 日	
至	至										
写真番号	径間番号	撮影年月日	写真番号	径間番号	撮影年月日						
部材名	要素番号	メ 毛	部材名	要素番号	メ 毛						
損傷の種類	損傷程度		損傷の種類	損傷程度							
写真番号	径間番号	撮影年月日	写真番号	径間番号	撮影年月日						
部材名	要素番号	メ 毛	部材名	要素番号	メ 毛						
損傷の種類	損傷程度		損傷の種類	損傷程度							

損 傷 写 真

点検調書(その7) 損傷程度の評価記入表 (主要部材)		径間番号		緯度		経度		緯度		経度		橋梁ID	

フリガナ 橋梁名	路線名		地方整備局	橋梁コード	
所在地	距離標	自 至	事務所	調書更新年月日	
			出張所	最新点検年月日	

工種	材料	部材種別		損傷程度			損傷 パターン	損傷の種類	分類
		名称	記号	要素番号	損傷程度の評価	定量的に取得した値			

点検調書(その8) 損傷程度の評価記入表
(点検調書(その7)に記載以外の部材)

フリガナ 橋梁名	路線名		管轄		地方整備局	橋梁コード	緯度 経度	起点側	緯度 経度	橋梁ID	年 月 日
	自	至	自	至							
所在地	距離標				出張所	最新点検年月日	緯度 経度				年 月 日
工種	材料	部材種別			損傷程度			損傷 パターン	損傷の種類	分類	
		名 称	記号	要素番号	損傷程度の評価	定量的に取得した値	単位				

点検調査(その9) 損傷程度の評価結果総括				径間番号		緯度 経度		起点側		緯度 経度		橋梁ID					
フリガナ 橋梁名	所在地	路線名	距離標	自 至	管轄	地方整備局	橋梁コード	緯度 経度	緯度 経度	起点側	緯度 経度	緯度 経度	橋梁ID				
														自	至	事務所	出張所
工種	材料	部材種別			今回定期点検	点検日	年月日	前回定期点検	点検日	年月日	損傷の種類(程度)						
		名称	記号	部材番号	損傷の種類(程度)	損傷の種類(程度)	損傷の種類(程度)										

点検調査(その10) 対策区分判定結果 (主要部材)				起点側	緯度 経度	起点側	緯度 経度	橋梁ID
-------------------------------	--	--	--	-----	----------	-----	----------	------

フリガナ 橋梁名	路線名		管轄		地方整備局		橋梁コード	
所在地	自	距離標	自	至	事務所	調査更新年月日	年	月
	自				出張所	最新点検年月日	年	月

工種 材料	部材種別	損傷の程度		対策区分						診断結果								
		最大	最小	補修等の必要性	維持工事で 対応する必要性	緊急対応の必要性			詳細調査の 必要性		原因		健全度 (部材単位)	所見				
						区分B の損傷	区分C1 の損傷	区分C2 の損傷	区分M の損傷	区分E1 の損傷	区分E2 の損傷	更新			区分S1 の損傷	区分S2 の損傷	確定	推定

点検調書(その11) 対策区分判定結果 (点検調書(その10)に記載以外の部材)		径間番号		緯度 経度	起点側	緯度 経度	橋梁ID
フリガナ 橋梁名		路線名		緯度 経度		橋梁コード	
所在地		距離標		緯度 経度		調査更新年月日	
自 至		自 至		緯度 経度		最新点検年月日	

管轄		地方整備局		緯度 経度		橋梁コード	
自 至		距離標		緯度 経度		調査更新年月日	
自 至		自 至		緯度 経度		最新点検年月日	

工種 材料	対策区分											検査結果			
	部材種別		損傷の程度		補修等の必要性			維持工事で 対応する必要性		緊急対応の必要性		詳細調査の 必要性		健全度 (部材単位)	所見
	名称	記号	最大	最小	区分Bの損傷	区分C1の損傷	区分C2の損傷	区分Mの損傷	区分E1の損傷	区分E2の損傷	区分S1 の損傷	区分S2 の損傷			
													区分E1の損傷	区分E2の損傷	

道路トンネル定期点検要領

平成26年6月

国土交通省 道路局 国道・防災課

定期点検及び診断の結果並びに措置の内容等を記録し，当該道路トンネルが利用されている期間中は，これを保存する．

【解説】

定期点検の結果は，維持・補修等の計画を立案する上で参考とする基礎的な情報であり，適切な方法で記録し蓄積しておかなければならない．

なお，定期点検後に補修や補強等を行った場合は，「健全性の診断」を改めて行い，速やかに記録に反映しなければならない．

また，その他の事故や災害等により道路トンネルの状態に変化があった場合には，必要に応じて「健全性の診断」を改めて行い，措置及びその後の結果を速やかに記録に反映しなければならない．

なお，応急対策を実施した場合は，「健全性の診断」をあらためて行わないこととする．

表-解 11.1 に道路トンネルの点検表の構成及び記載内容を示す．

表-解 11.1 定期点検要領 点検表記録様式リスト

様式番号	記録内容	
様式 A - 1	トンネル 台帳	トンネル諸元，非常用施設諸元
様式 A - 2		トンネル情報一覧表
様式 A - 3		トンネル記録（位置図，断面図，施工実績他）
様式 B	点検調書	トンネル変状・異常箇所写真位置図
様式 C - 1 - 1		点検結果総括表（トンネル本体工）
様式 C - 1 - 2		点検結果総括表（トンネル内附属物の取付状態）
様式 C - 2		調査・措置の履歴
様式 D - 1		変状写真台帳
様式 D - 2		トンネル全体変状展開図
様式 D - 3		覆工スパン別変状詳細展開図
様式 E - 1	診断調書	診断結果（変状単位）
様式 E - 2		診断結果（覆工スパン毎，トンネル毎）

(1)点検表記録様式の構成

1)トンネル台帳【様式 A】

トンネル完成時の本体工の図書とする。トンネルの一般的な諸元には、道路区分・交通量・延長・内空断面，本体工の線形・幅員構成・掘削工法・覆工・坑門・舗装等に関する諸数値，付属施設の換気・照明・非常用施設に関する設備の設置台数等を整理する。また，トンネル情報一覧表には，覆工スパン番号と距離の関係や本体工に関する代表的な附属物，付属施設に関する情報を記載する。また，トンネル記録には，位置図や現況写真(坑口写真)，断面図や縦断図を記録するとともに，工事中の記録として施工時に不良地山で特殊工法等を用いた箇所及び検討内容・工法等を記述する。トンネル一般諸元等様式の例を以下に示す。

トンネル諸元等様式の例

トンネル台帳 【様式A - 1】

フリガナ	トンネル	路線名	国道	河川国道事務所	緊急輸送道路 代替路の有無	あり
名称	トンネル	トンネル	トンネル	トンネル	トンネル	あり
所在地	自 東京都 区 至 東京都 区	作成者	作成年月日	2014年1月1日	トンネル延長 トンネルの分類	L= 100 m 陸上トンネル矢板工法
起点	緯度 45° 33' 28.0 経度 135° 59' 11.0	完成年月日	2012/1/1	種別	施設の内訳	更新年度
終点	緯度 20° 25' 31.0 経度 122° 56' 31.0	供用年月日	2013/1/1	厚さ	非常電話	1
トンネル等級	トンネル等級	トンネル種類	D	面積	押ボタン式通報装置	2
内装種類	内装種類	覆工(内装なし)		更新年次	火災検知器	
一般有料区分	無料	天井板種類		種別	警報表示板	2
土かぶり	80 m	起点	坑門	更新年次	点滅灯	
内空断面積	54 m ²	終点	竣工巻厚	種別・方式	音信号発生器	2
交通量	1,700 台/日	形式	面壁型	更新年次	消火器	
道路幅	1.5 m	延長	0.7 m	照明	消火栓	
車道幅	3 m	アーチ	30 cm	換気	誘導表示板	3
歩道等幅	0.75 m	側壁	30 cm	標識	排煙設備	
建築限界高	4.7 m	インバート	50 cm	警報表示板	避難通路	
中央高	6.4 m	半径	540 cm	吸音板	給水栓	
有効高	4.7 m	種類	690 cm	天井部	無線通信補助設備	
縦断勾配	上り0.4%	インバート	1578 cm	管理者名	ラジオ再放送設備	
直線区間長	100m	種類	寸法	更新年次	拡声放送設備	
区間長	-	占用物件			水噴霧設備	
起点側クワット	-				監視装置(CCTV)	
曲線区間					非常用電源設備	
曲線半径	-				非常駐車帯	
終点側クワット	-				方向転換所	
トンネル工法	補助ベンチ付全断面工法				その他の	

サンプル

緯度・経度については0.1 単位まで記入することとする。

トンネル記録の例

トンネル台帳 トンネル記録 【様式 A - 3】

フリガナ	トンネル	路線名	国道	作成者	作成年月日	2014年1月1日
名称	トンネル	管理者名	河川国道事務所			

距離TD (m)	20	40	60	80	100	120	140	152.7
区間長 (m)	49.9m		51.0m		31.4m		20.4m	
断面	既設断面		標準断面		標準断面		標準断面	
掘削工法	上部半断面先施工法							
岩盤区分	D		B		C			
支保工	H-200@0.9m		H-150@1.2m		H-200@1.2m			
7-F	60cm	60cm	45cm	45cm	45cm	45cm	45cm	60cm
削壁	なし		なし		なし		なし	
インポート厚	367mm							
引張鉄筋								
既設地下排水			154.8m					

位置図・現況写真・標準断面図・地質縦断面図・施工実績

2)点検調書【様式B~D】

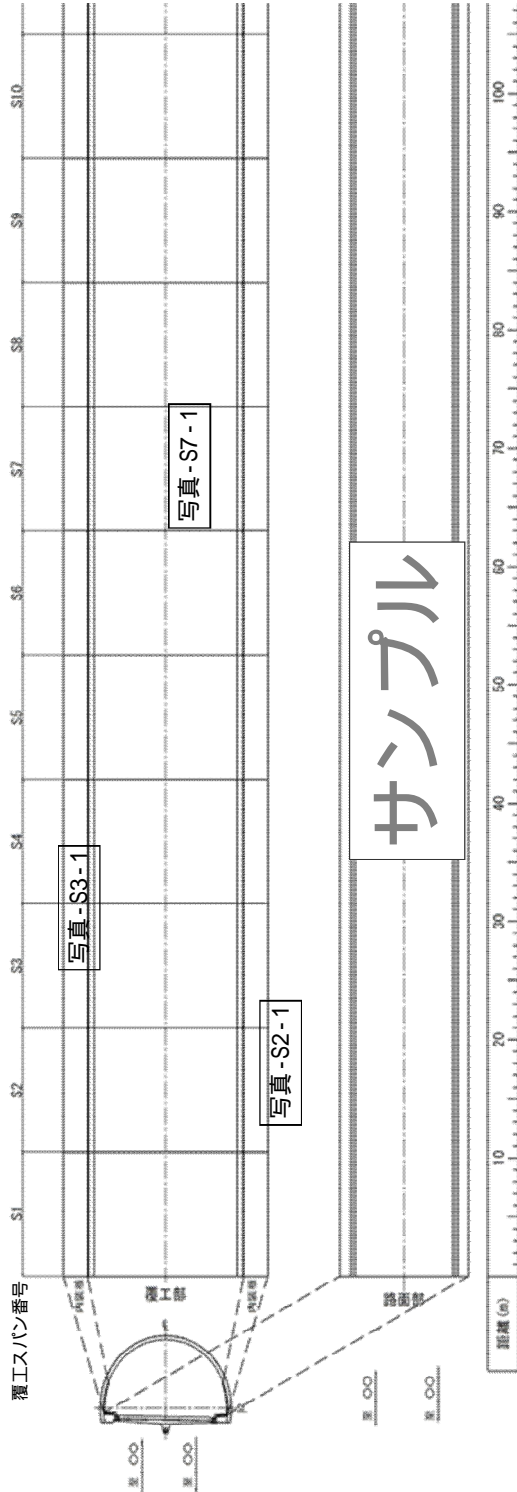
トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式B】

トンネルの展開図に，変状・異常箇所の写真位置を記録する．

変状・異常箇所写真位置図の例

点検調書 トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式B】

フリガナ 名称	トンネル		路線名	国道 号	管理者名	河川国道事務所		緊急輸送道路 代替路の有無	あり
	トンネル					2014年1月15日		トンネル延長	L= 100 m
所在地	自	東京都 区	点検業者・点検者名	調査年月日	調査年月日	トンネル毎 の健全性		トンネルの分類	陸上トンネル矢板工法
	至	東京都 区				1箇所	1箇所		
起点	緯度	43.208229	トンネル 本体工	材質劣化	1箇所	トンネル毎 の健全性	1箇所	トンネルの分類	附属物の 取付状態
	経度	140.329847							
終点	緯度	43.207998	トンネル 本体工	漏水	1箇所	トンネル毎 の健全性	1箇所	トンネルの分類	附属物の 取付状態
	経度	140.329054							



トンネル変状・異常箇所写真位置図

- 写真番号の記載例
写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】
- 注1：本位置図は，見下げた状態で記載すること．
 - 注2：覆工スパン番号は横断方向目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断方向目地毎)に設定すること．
 - 注3：写真番号に付する変状番号は，各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと．
 - 注4：横断方向目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること．
 - 注5：1枚に収まらない場合は，複数枚に分けて作成すること．

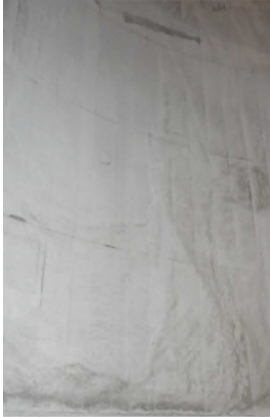


- 1 トンネル本体工の変状数は，材質劣化，漏水に起因するものは変状単位で，外力に起因するものはスパン単位で計上すること．
- 2 本体工の変状に対しては，判定区分～（対策実施後の含む）について記載すること．
- 3 附属物の異常に対しては，判定区分×（対策実施後の含む）について記載すること．

変状写真台帳，変状展開図【様式D-1，D-2，D-3】

変状写真と変状展開図を記載する。

変状写真台帳の例

点検調査書 変状写真台帳 【様式D-1】

フリガナ名称		トンネル		路線名	国道号	点検業者・点検者名		点検年月日
写真番号		トンネル		管理者名	河川国道事務所	調査技術者名		調査年月日
覆工スパン番号	S2					覆工スパン番号	S3	
変状番号	1					変状番号	1	
対象箇所	覆工					対象箇所	覆工	
部位区分	左アーチ					部位区分	右側壁	
変状区分	外力					変状区分	材質劣化	
変状種類	ひび割れ					変状種類	ひび割れ	
健全性						健全性		
変状の発生範囲の規模	幅3.5mm長さ5.0m					変状の発生範囲の規模	幅0.8m長さ1.5m	
前回点検時の状態	幅2.0mm長さ4.5m					前回点検時の状態	なし	
調査(方針)	ひび割れ進行調査					調査(方針)	なし	
措置(方針)	グラウトアンカー工					措置(方針)	はげ落防止工	
メモ	幅3.5mm長さ5.0mのひび割れ					メモ	0.8m x 1.5mのうき	
写真番号	S7					写真番号		
変状番号	1					変状番号		
対象箇所	覆工					対象箇所		
部位区分	左アーチ					部位区分		
変状区分	漏水					変状区分		
変状種類	漏水					変状種類		
健全性						健全性		
変状の発生範囲の規模	-					変状の発生範囲の規模		
前回点検時の状態	目地部からの漏水、滴水					前回点検時の状態		
調査(方針)	漏水量調査					調査(方針)		
措置(方針)	導水溝工					措置(方針)		
メモ	目地部からの漏水、滴水					メモ		

サンプル

応急対策を実施した場合は、その実施状況が分かる写真を添付すること。
変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう

たつき落とし、締直しを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。
附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

トンネル全体変状展開図の例

点検調書 トンネル全体変状展開図 【様式D - 2】

フリガナ	トンネル	路線名	国道	点検業者・点検者名	点検年月日
名称	トンネル	管理者名	河川国道事務所	調査業者・調査技術者名	調査年月日

点検年月日	2014年1月1日
調査年月日	2014年2月1日

トンネル全体変状展開図

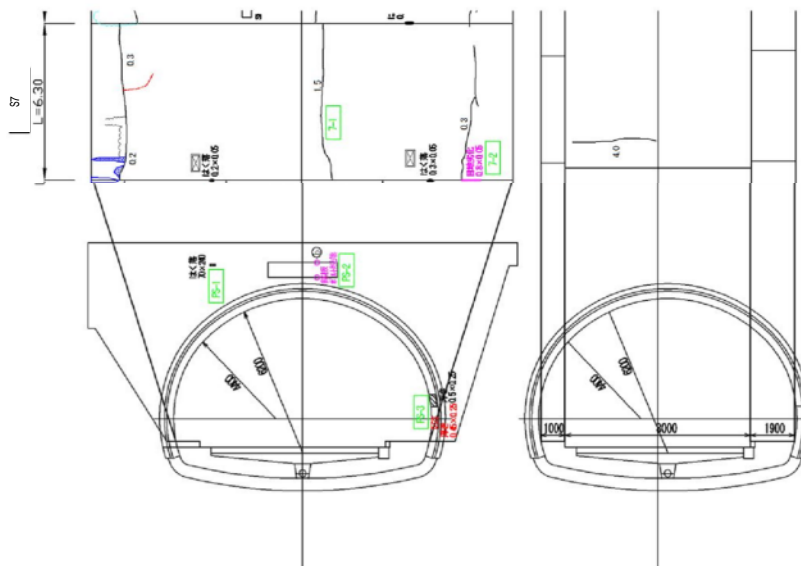
注1: 本展開図は、見下げた状態で記載すること。
 注2: 覆工スパン番号は横断方向目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断方向目地毎)に設定すること。
 注3: 横断方向目地の変状は前の出校スパン番号で計上すること。
 注4: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

覆工スパン別変状詳細展開図の例

点検調査書 覆工スパン別変状詳細展開図 【様式D-3】

フリガナ	トンネル	路線名	国道	点検業者・点検者名	・	点検年月日	2014年1月1日
名称	トンネル	管理者名	河川国道事務所	調査業者・調査技術者名	・	調査年月日	2014年2月1日

覆工スパン別変状詳細展開図



スパン別変状展開図

サンプル

健全性判定集計表

外力	材質劣化				漏水			
	変状番号	対策区分の判定		変状番号	対策区分の判定		スパン毎健全性	スパン毎健全性
スパン毎健全性	1	b	a	1	b	a		
	2	1						
	3	1						
	5	1						
					4			
スパン毎健全性								スパン毎健全性
(特記事項)								

- 注1: 本展開図は、見下げた状態で記載すること。
- 注2: 覆工スパン番号は横断方向目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断方向目地毎)に設定すること。
- 注3: 横断方向目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
- 注4: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

5)診断調書【様式E】

診断結果を記録する．なお，記載にあたっては変状単位，また，覆工スパン毎とトンネル毎で記載する．

診断結果（変状単位）の例

フリガナ		トンネル		路線名		国道		点検業者・点検者名		点検年月日	
名称		トンネル		管理者名		河川国道事務所		調査業者・調査技術者名		調査年月日	
覆工スパン番号		外力		材質劣化		漏水		覆工スパン番号		材質劣化	
坑門工		PS						S5			
		箇所数						箇所数			
		健全性						健全性			
		S1		1				S6			
		箇所数		1							
		健全性									
		S2						S7		1	
		箇所数						箇所数			
		健全性						健全性			
		S3		1				S8			
				2							
		箇所数		3				箇所数			
		健全性						健全性			
		S4						S9			
		箇所数						箇所数			
		健全性						健全性			
		変状箇所数・変状単位の健全性の判定									

サンプル

外力に起因する変状は変状の種類毎に覆工スパン単位で計上し，材質劣化，漏水に起因する変状は変状単位で計上すること．

診断結果（覆工スパン毎、トンネル毎）の例

診断調査 診断結果（覆工スパン毎、トンネル毎）【様式 E - 2】									
フリガナ	トンネル	路線名	国道	点検業者・点検者名		点検年月日	2014年1月1日		
名称	トンネル	管理者名	河川国道事務所	調査業者・調査技術者名		調査年月日	2014年2月1日		
覆工スパン毎・トンネル毎の健全性の判定	PS	S24	S48	S72	S96	S120	S144		
	S1	S25	S49	S73	S97	S121	S145		
	S2	S26	S50	S74	S98	S122	S146		
	S3	S27	S51	S75	S99	S123	S147		
	S4	S28	S52	S76	S100	S124	S148		
	S5	S29	S53	S77	S101	S125	S149		
	S6	S30	S54	S78	S102	S126	S150		
	S7	S31	S55	S79	S103	S127	S151		
	S8	S32			S104	S128	S152		
	S9	S33			S105	S129	S153		
	S10	S34			S106	S130	S154		
	S11	S35			S107	S131	S155		
	S12	S36			S108	S132	S156		
	S13	S37			S109	S133	S157		
	S14	S38			S110	S134	S158		
	S15	S39			S111	S135	S159		
	S16	S40			S112	S136	S160		
	S17	S41			S113	S137	S161		
	S18	S42			S114	S138	S162		
	S19	S43			S115	S139	S163		
	S20	S44			S116	S140	S164		
	S21	S45			S117	S141	S165		
	S22	S46			S118	S142	S166		
S23	S47			S119	S143	S167			
集計	健全性	健全性	健全性	健全性	トンネルの健全性				
		1	2		トンネルの健全性				

サンプル

シェッド，大型カルバート等
定期点検要領

平成26年6月

国土交通省 道路局 国道・防災課

別紙3 点検記録様式 (1)ロックシエッド・スノーシエッド

点検調書(その1)			シエッドの諸元と総合検査結果			
施設ID	93690119	路線名	一般国道〇〇号(現道)	〇〇地方整備局	施設No.	10
フリガナ	〇〇ロックシエッド	路線名		管轄		
施設名	〇〇ロックシエッド	距離標	自 23.7 km + 00m 至 23.7 km + 96m		〇〇国道事務所	2014年1月20日
所在地					〇〇出張所	
緯度 35° 9' 33.8"	起點	緯度 139° 49' 8.9"				
経度 139° 49' 8.9"	終點	緯度 35° 9' 34.50"				
緯度 139° 50' 00.0"		緯度 139° 50' 00.0"				
道路規格	3種 1級	設計速度	80 km/h			
調査年	2012年	区間番号				
交通量	昼間12時間		18,000			
大型車混入率			36			
荷重制限						
緊急輸送道路の指定			有			
優先確保ルートの指定			有			
事前通行規制・迂回路			無			
融雪剤等散布区間			有			
施設機能/種別		ロック	シエッド			
延長/ブロック数	96.00 m		8 ブロック			
内空幅員/車道幅員	8.50 m		7.00 m			
断面有効高/建築限界	4.70 m		4.90 m			
上部使用材料/形式	PC製		逆L型			
工工頂版形式/勾配	T形断面PC梁		2			
下部山側躯体/基礎	逆L型連続		直接			
工(谷側)躯体/基礎	逆L型連続		海唇擁壁			
緩衝材種類/厚さ/面積	砂	0.9 m	768 m ²			
飛散防止材種類/厚さ/面積	砂利	0.2 m	768 m ²			
照明種類/灯数	無					
海岸からの距離	10		カ所			
谷側条件	海岸・消波ブロック有					
現地写真 全景(谷側柱などがわかる側面の写真)						
			所見	ブロック1の下部工(海岸擁壁)のコンクリート部材の塵耗・減厚、上部構造(主梁)および支承部(谷側柱基部)のコンクリート部材にさび汁・遊離石灰を伴うひび割れ等の変状が進行しており、シェッドの構造安全性に影響する可能性がある高い状態にある。		
III						
健全度の判定 (総合評価)						
維持管理情報						
鋼部材	溶融亜鉛メッキ	溶融亜鉛メッキ	HDZ35			
防腐	塗装面積	9.4 m ²	(高欄含む全塗装面積)			
RC・PC部材	セメント種類/W/C	下部PC BB	55	%	上部PC H	30
PC部材	鋼材/PC or PRC	主梁	PC鋼より線	PRC	柱	アンボンドPC鋼棒
占用物件 名称: 管理者: 更新年次:						
現地写真 近景(頂版・柱のわかる側面の写真)						
			位置図			
ブロック番号図						
ブロック番号						
1	2	3	4	5	6	7
8	終点側					
起点側						
道路台帳番号						
区間順序番号						
事業種別						
道路防災対策						
設計者						
〇〇コンサル(株)						
施工者(上部工)						
〇〇建設(株)/〇〇コンクリート工業						
施工者(下部工)						
〇〇建設(株)						
マイクログリッド番号						

注1:施設IDは、起點の位置情報(緯度・経度)によるものとする。なお、IDの取得については、〇〇〇〇の記入例を参照すること。
 注2:各道路管理者にて、既に独自のシエッドNo.等を併記する。
 注3:経度・緯度については、0.1"単位まで記入することとする。
 なお、位置情報(緯度・経度)の取得については、トータルステーション、ポータルGPS等の機器のほか、携帯電話及びスマートフォン

総合検査結果
 災害履歴の有無
 最新履歴
 2007年10月
 点検履歴
 ・2005年〇月〇日 総合的な評価 II
 ・2010年〇月〇日 総合的な評価 I
 (特記事項及び防災
 点検結果等は備考
 欄に記載)

補修履歴
 ・2006年〇月〇日
 山側受台の壁面剥離箇所のモルタル補修
 ・2007年〇月〇日
 海側梁部のひび割れ箇所補修

備考
 ・防災点検2006年〇月〇日 背後斜面、点検結果異状なし

位置図

位置図

位置図

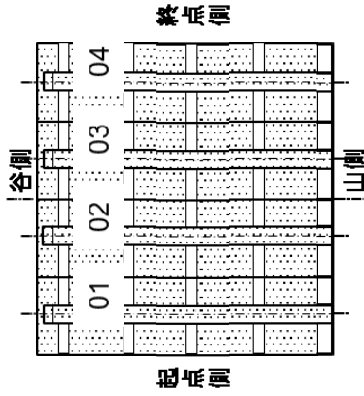
位置図

点検調書 (その2) 部材番号図

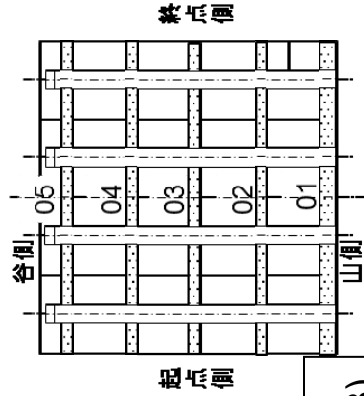
ブロック番号 1

施設 ID	93690119	路線名	一般国道〇〇〇号 (現道)	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	10
フリガナ	〇〇〇〇ががが	路側名	〇〇ブロックシェッド				
施設名							

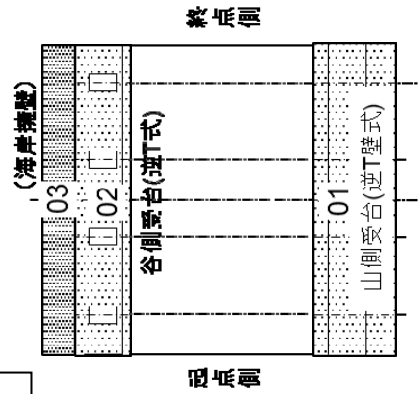
主梁 (Mg)



横梁 (Cr)

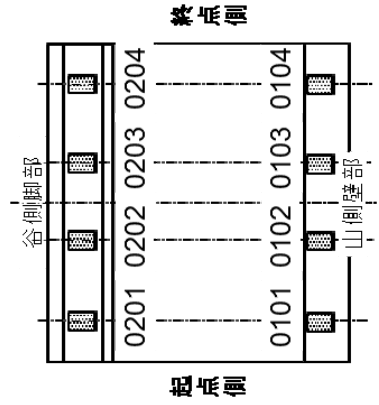
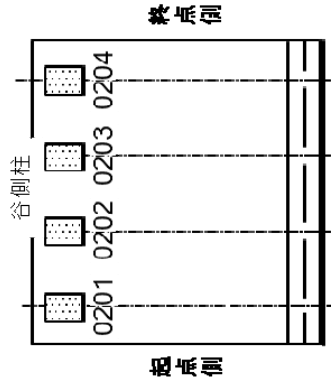


支承 (B)



下部構造 (SB)

谷側柱 (Co)



点検調査（その3） 判定区分判定結果



施設 ID	93690119	ブロック番号	1
フリガナ	〇〇ロケット		
施設名	〇〇ロックシェッド		
路線名	一般国道〇〇〇号（現道）	管轄	〇〇地方整備局
施設 No.	10		

工種	材料	部材種別				判定区分				備考
		名称	記号	部材番号	区分Ⅰの変状	区分Ⅱの変状	区分Ⅲの変状	区分Ⅳの変状		
SP	C	主梁	Mg	02.03				張出し部のひびわれからさび汁や遊離石灰が出ている。		路上に落下する恐れのある浮きは確認できない。
SP	C	横梁	Cr	02	コンクリート部材に剥離が生じている。					剥離は2012年9月に発生したものであり、進展はみられない。
SP	C	谷側柱	Co	0204	PC鋼材に沿ったひび割れが生じている。					ひび割れ幅は0.1mm未満程度。さび汁・遊離石灰の発生は見られない。
SP	X	目地部			PCシェッド頂版の目地部からわずかに漏水が生じている。					さび汁・遊離石灰の発生、緩衝材の流出は見られない。
SB	C	山側受台		01						
SB	C	海岸擁壁		03				コンクリート部材が摩耗・減厚している。		前回点検時点より、変状が若干進行している。
B		山側管産部								
B		谷側柱基部						コンクリートヒンジ部にひびわれ、剥離、鉄筋露出・腐食が生じている。		
E		排水工			谷側柱に設置された排水管が破損している。					近傍のコンクリートに変状はみられない。 (維持補修の範囲で対応?)
E		緩衝材上			設計で想定した大きさ以下の落石が法尻(裏込め土上)にある。					前回点検より変化はみられない。

点検調書 (その4) 状況写真

施設 ID	93690119	ブロック番号	1
フリガナ	〇〇ブロック		
施設名	〇〇ブロック	路線名	一般国道〇〇〇号 (現道)
	〇〇地方整備局	管轄	施設 No.
			10

上部構造 (SP)	下部構造 (SB)
 <p>Cr03, Mg02, Mg03, Co 0204</p>	 <p>SB01, SB03</p>

支承部 (B)	その他 (E)
 <p>B0204, SB01, B0203</p>	 <p>B0201, 法尻・裏込土上</p>

点検調書 (その5) 変状図

施設 ID		93690119		ブロック番号		1	
フリガナ		〇〇ロウがエイト		路線名		一般国道〇〇〇号 (現道)	
施設名		〇〇ブロックシェッド		管轄		〇〇地方整備局	
				施設 No.		10	

--	--	--	--	--	--	--	--

部 材 番 号 図

点検調書(その6) 変状写真

ブロック番号

写真番号	部材名	変状の種類	要素番号	変状程度	写真番号	部材名	変状の種類	要素番号	変状程度	撮影年月日	メ	モ
			要素番号					要素番号				
			変状程度					変状程度				
変 状 写 真												

点検調書(その7) 変状程度の評価記入表
 (主要部材)

施設 ID				
フリガナ施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.

工種	材料	部材種別			変状程度			変状パターン	変状の種類	分類
		名称	記号	要素番号	変状程度の評価	定量的に取得した値	単位			

点検調書(その8) 変状程度の評価記入表
(点検調書(その7)に記載以外の部材)

施設 ID			ブロック番号	
フリガナ施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.

工種	材料	部材種別			変状程度		変状パターン	変状の種類	分類
		名称	記号	要素番号	変状程度の評価	定量的に取得した値			

点検調書(その9) 変状程度の評価結果総括

ブロック番号

施設 ID					
フリガナ 施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	

工種	材料	部材種別		今回定期点検 点検日	年月日	前回定期点検 点検日	年月日	変状の種類(程度)
		名称	記号					

点検調書(その10) 対策区分判定結果(主要部材)

施設 ID				ブロック番号	
フリガナ 施設名	路線名		管轄	〇〇地方整備局	施設 No.

工種	材料	部材種別			変状の程度		対策区分						診断結果							
		名称	記号	部材番号	最大	最小	補修等の必要性		維持工事で 対応する 必要性	緊急対応の必要性			詳細調査の 必要性		原因		健全度 (部材単位)	所見		
区分B の変状	区分C1 の変状	更新	区分C2 の変状	区分M の変状	区分Eの変状	更新	区分E1 の変状	更新		区分E2 の変状	区分S1 の変状	区分S2 の変状	確定	推定						


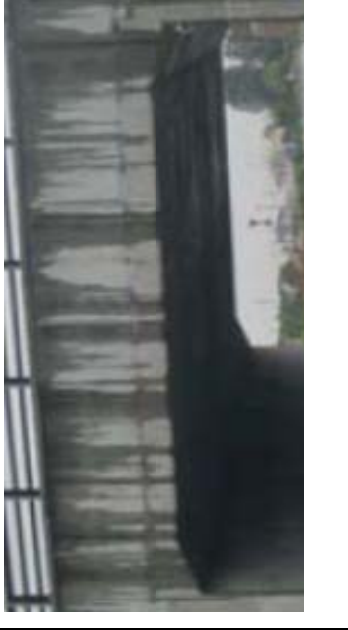
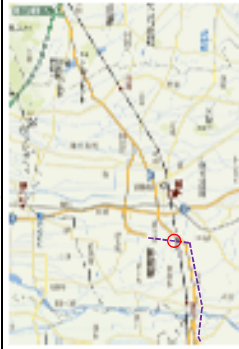
**点検調書(その11) 対策区分判定結果
(点検調書(その10)に記載以外の部材)**

施設 ID		ブロック番号	
フリガナ 施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局
			施設 No.

工種	材料	部材種別		変状の程度		対策区分						検査結果					
		名称	記号	最大	最小	補修等の必要性	維持工事で 対応する 必要性	緊急対応の必要性		詳細調査の必要性			健全度 (部材単位)				
								区分B の変状	区分C1 の変状	区分C2 の変状	区分M の変状			区分E1 の変状	区分E2 の変状	区分S1 の変状	区分S2 の変状
																所見	

別紙3 点検記録様式 (2) 大型カルバート

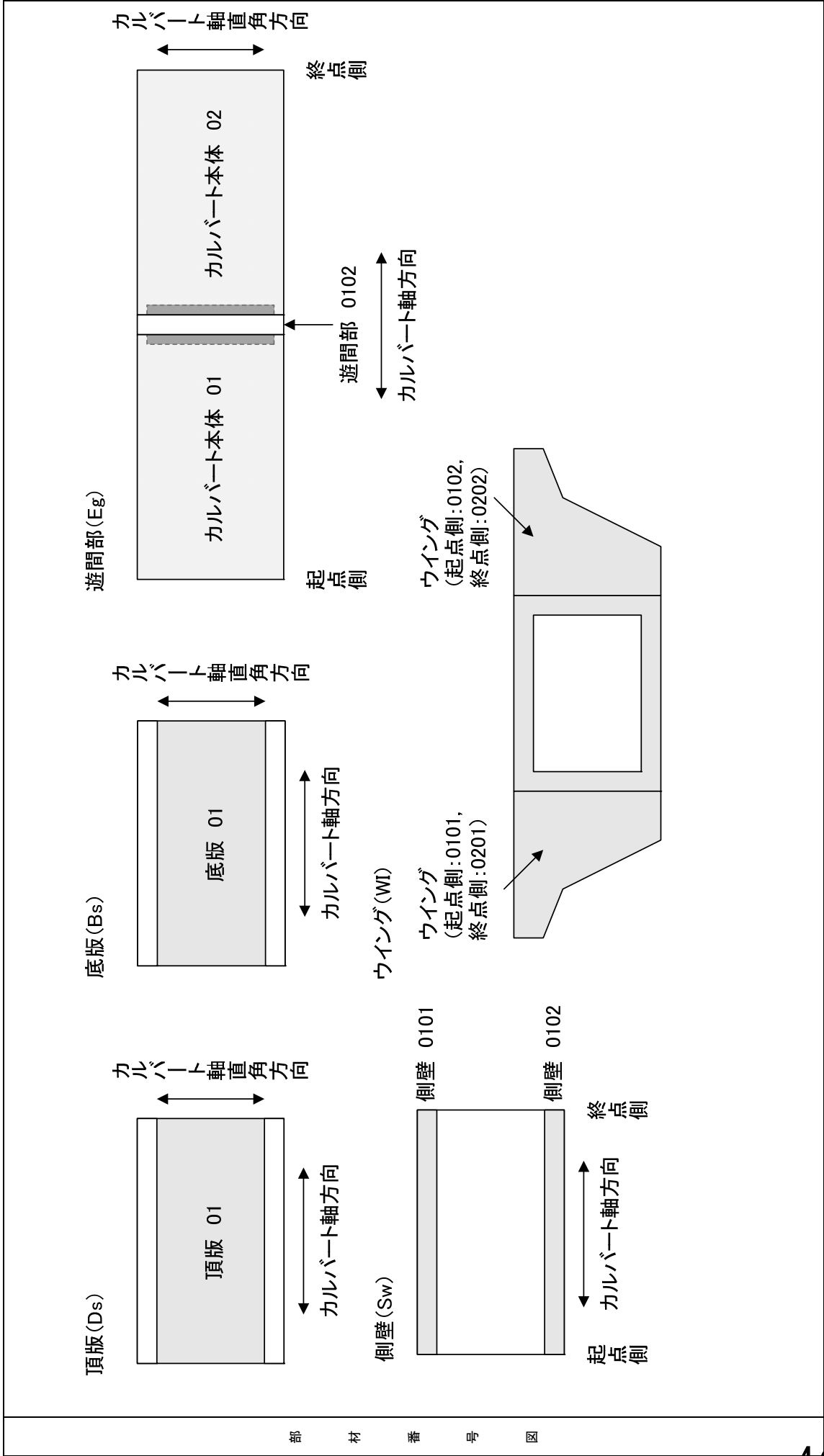
点検調査(その1) カルバートの諸元と総合検査結果

施設ID	93690118		路線名	一般国道〇〇号〇〇バイパス		施設No.	100
フリガナ	〇〇カルバート		距離標	1230 km + 45m		調書更新年月日	2015年1月20日
所在地	自	〇〇県〇〇市	緯度	36° 18' 30"	経度	139° 57' 30.0	管轄 〇〇国道事務所 〇〇国道出張所
	至	〇〇県〇〇市	緯度	36° 18' 5.0	経度	139° 57' 40.0	
	至	〇〇県〇〇市	緯度	36° 18' 5.0	経度	139° 57' 40.0	
道路規格	3種	1級	設計速度	80 km/h		総点検結果	異状なし
調査年	2010年		区間番号	8,833		災害履歴の有無	無
交通量	昼間12時間		大型車混入率	58%		最新補修履歴	無
荷重制限	有		緊急輸送道路の指定	有		点検履歴	・2005年〇月〇日 総合的な評価 I ・2010年〇月〇日 総合的な評価 I
優先確保ルート	有		事前通行規制・迂回路	有		設計事項は備考欄に記載	
融雪剤等散布区間	有		融雪剤等散布区間	有			
施設種別	橋断ボックスカルバート		延長/ブロック数	28 m / 2ブロック			
内空高	7.00 m		内空高	7.00 m		補修履歴	・無し
内空全幅員/有効幅員/車道幅員	10.50 m / 8.90 m / 3.75 m		内空全幅員/有効幅員/車道幅員	10.50 m / 8.90 m / 3.75 m		補修履歴(特記事項は備考欄に記載)	
車道幅/車線数/歩道幅/地覆幅	3.75m/1車線/0.70m/0.30m		車道幅/車線数/歩道幅/地覆幅	3.75m/1車線/0.70m/0.30m			
上り線側	-		上り線側	-			
下り線側	-		下り線側	-			
構造形式	場所打ちボックスカルバート		構造形式	場所打ちボックスカルバート			
使用材料	鉄筋コンクリート		使用材料	鉄筋コンクリート			
土かぶり	1.5m		土かぶり	1.5m			
基礎形式	直接基礎		基礎形式	直接基礎			
照明(種類/灯数)	有(蛍光灯)		照明(種類/灯数)	有(蛍光灯)			
海岸からの距離	500m		海岸からの距離	500m			
占有物件	名称: 管理者: 更新年次:		占有物件	名称: 管理者: 更新年次:			
現地写真 全景			現地写真 近景			位置図	
道路台帳番号	一般国道〇〇号〇〇バイパス		道路台帳番号	一般国道〇〇号〇〇バイパス		区間順序番号	
事業種別	〇〇コンサルタント		事業種別	〇〇コンサルタント		設計者	
設計者	〇〇建設		設計者	〇〇建設		施工者	
施工者	マイクログリッド番号		施工者	マイクログリッド番号			

健全度の判定 (総合評価) III 所見 側壁に幅の広いひびわれが見られ、カルバート延長方向に続いており、構造上の弱点箇所となる可能性が考えられた。継手のずれた部分から裏込め土の流入が見られた。これらの状態は、構造安全性に影響を及ぼす状態になる兆候であり、措置が必要である。また、照明器具の劣化については、第三者被害防止の観点から、器具の交換等の措置が必要である。

点検調書 (その2) 部材番号図

施設 ID	93690118	ブロック番号	01
フリガナ施設名	〇〇カルバート 〇〇カルバート	路線名	一般国道〇〇号 〇〇バイパス
管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	100



点検調査（その3） 判定区分判定結果

施設 ID	93690118	ブロック番号	01
-------	----------	--------	----

フリガナ 施設名	〇〇カバート 〇〇カルバート	路線名	一般国道道〇〇号 〇〇バイパス	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	100
-------------	-------------------	-----	-----------------	----	---------	--------	-----

工種	材料	部材種別			判定区分				備考	
		名称	記号	部材番号	区分Ⅰの変状	区分Ⅱの変状	区分Ⅲの変状	区分Ⅳの変状		
CUL	C	頂版	Ds	01	・目視でも確認可能なひびわれが見られるが、直ちにうき・剥離・落下に至る危険性は低い。					
CUL	C	側壁	Sw	0101			・幅の広いひびわれがカルバート延長方向に長く続いている。 ・側壁と底版のハンチ部の打ち継ぎ目部分で、カルバート延長方向に長く続くひびわれが見られ、構造上の弱点箇所になることが懸念される。			
CUL	C	側壁	Sw	0102						
CUL	C	底版	Bs	01	・変状は見られなかった。					
J0	C. X	連結部	Js	0102	・継手の目地部から、局所的に漏水の形跡が見られる。					
J0	C. X	遊間部	Eg	0102				・継手のずれた部分から、裏込め土の流入が見られる。		
WI	C	ウイング		0101	・ウイングと坑口擁壁間に開口が生じているが、裏込め土の流出は見られない。					
WI	C	ウイング		0102	・ウイング取付け部の顕著な開口が見られる。					
E	S									

点検調書 (その4) 状況写真

施設 ID	93690118	ブロック番号	01
フリガナ 施設名	〇〇カバート 〇〇カルバート	路線名	一般国道〇〇号 〇〇バイパス
		管轄	〇〇地方整備局

施設 No.	100
--------	-----

カルバート本体 (側壁 0101)	継手 (遊間部 0102)
-------------------	---------------



ウイング (0101)	その他
-------------	-----



点検調書 (その5) 変状図

施設 ID	93690118	ブロック番号	01
フリガナ 施設名	〇〇カバート 〇〇カルバート	路線名	一般国道〇〇号 〇〇バイパス

管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	100
----	---------	--------	-----

部 材 番 号 図	
-----------------------	--

点検調書(その6) 変状写真

ブロック番号

写真番号			撮影年月日			写真番号			撮影年月日		
部材名	要素番号	変状程度	メ		モ	部材名	要素番号	変状程度	メ		モ
変状の種類						変状の種類					
写真番号			撮影年月日			写真番号			撮影年月日		
部材名	要素番号	変状程度	メ		モ	部材名	要素番号	変状程度	メ		モ
変状の種類						変状の種類					

変状写真

点検調書(その7) 変状程度の評価記入表
(主要部材)

施設 ID				
フリガナ施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.

工種	材料	部材種別			変状程度		変状パターン	変状の種類	分類
		名称	記号	要素番号	変状程度の評価	定量的に取得した値			

点検調書(その8) 変状程度の評価記入表
(点検調書(その7)に記載以外の部材)

	ブロック番号
--	--------

施設 ID					
フリガナ 施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	

工種	材料	部材種別			変状程度			変状 パターン	変状の種類	分類
		名称	記号	要素番号	変状程度の評価	定量的に取得した値	単位			

点検調書(その9) 変状程度の評価結果総括

施設 ID	ブロック番号	
-------	--------	--

フリガナ施設名	路線名	管轄
		〇〇地方整備局
		施設 No.

工程	材料	部材種別		今回定期点検	点検日	変状の種類(程度)	前回定期点検	点検日	変状の種類(程度)	年月日
		名称	記号							

点検調書(その10) 対策区分判定結果(主要部材)

ブロック番号

施設 ID				
フリガナ施設名	路線名	管轄	○○地方整備局	施設 No.

工種	材料	部材種別	変状の程度		対策区分				診断結果										
			最大	最小	補修等の必要性		維持工事 で対応する 必要性	緊急対応の必要性		詳細調査の 必要性	原因								
					区分B の変状	区分C1 の変状		更新	区分C2 の変状		区分M の変状	区分E1 の変状	更新	区分E2 の変状	確定	推定	健全度 (部材単位)	所見	
			区分E1 の変状	更新	更新	更新	更新	更新	更新										

点検調書(その11) 対策区分判定結果
(点検調書(その10)に記載以外の部材)

ブロック番号

施設 ID					
フリガナ 施設名	路線名	管轄	〇〇地方整備局	施設 No.	

工種	材料	部材種別		変状の程度		対策区分					検査結果				
		名称	記号	最大	最小	補修等の必要性	維持工事で対応する必要性	緊急対応の必要性		詳細調査の必要性		健全度 (部材単位)	所見		
								区分 B の変状	区分 C1 の変状	区分 C2 の変状	区分 M の変状			区分 E1 の変状	区分 E2 の変状